

373

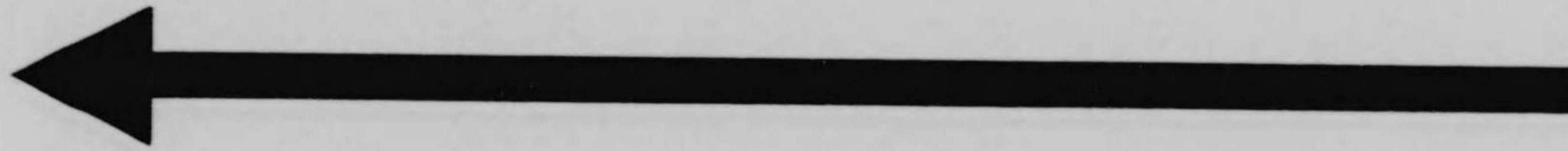
495

岡山県物産概要

国立国会図書館



始



247070

岡山縣物産概要



373-495



緒言

本書は縣下物産各種中重要なるもの及特種のものに
き極めて簡単に記述したるものなり而して數字は
九年及十年に屬する事實に據れり是唯本縣物産の

大正 11. 3. 27

内交

大正十一年三月

を紹介するのみ

岡山縣商品陳列所





山西省農林廳編印



目次

生 產 總 價 額
農 米 麥 大 米 其 他 類 參
蔬 菜 馬 鈴 薯 類 參
南 瓜 類 參
甘 薯 類 參
葉 菜 類 參
葉 菜 類 參
除 蟲 藥 類 參
果 物 類 參
桃 類 參
梨 類 參
葡 萄 類 參
柿 類 參

一 二 三 四 六 七 八 一〇 二一 三二 三三 三四 三五 三六 三七 三八 三九 四〇 四一 四二 四三 四四 四五 四六 四七 四八 四九 五〇 五一 五二 五三 五四 五五 五六 五七 五八 五九 六〇 六一 六二 六三 六四 六五 六六

柑 橘 類 參
無 花 果 類 參
桃 類 參
茶 類 參
畜 牛 類 參
畜 羊 類 參
畜 猪 類 參
畜 雞 類 參
蠶 絲 類 參
製 糖 類 參
製 鹽 類 參
製 油 類 參
製 紙 類 參
石 材 類 參
木 材 類 參
炭 類 參

六 七 八 九 一〇 一一 一二 一三 一四 一五 一六 一七 一八 一九 二〇 二一 二二 二三 二四 二五 二六 二七 二八 二九 三〇 三一 三二 三三 三四 三五 三六 三七 三八 三九 四〇 四一 四二 四三 四四 四五 四六 四七 四八 四九 五〇 五一 五二 五三 五四 五五 五六 五七 五八 五九 六〇 六一 六二 六三 六四 六五 六六

岡山縣物產概要

生產總價額

種別	生產總價額
農產物	壹億貳百六拾九萬參千七百四拾六圓
畜產物	參百七拾貳萬四千六百九拾圓
林產物	壹千貳百參拾萬八千五百貳拾九圓
鑛產物	參百九拾七萬七千五百九拾五圓
水產物	七百六拾貳萬六千九百四拾五圓
工業物	壹億八千五百八拾壹萬五千參百參圓
總計	參億壹千六百拾四萬六千八百八圓



(1)

出	伊	板	和	足	同	織	麥	疊	野	花	絹	綿	工	食	糖	水	鑛	松	三	五
伊	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和
明	部																			
燒	燒	紙	紙	袋	物	物	表	表	表	表	表	表	表	表	表	表	表	表	表	表
目																				

五 四 四 四 四 四 四 四 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 二
 〇 九 八 七 六 四 二 一 〇 九 八 八 六 六 五 四 三 一 一 〇 九

染	柳	漆	竹	菓	菓	菓	菓	菓	菓	菓	菓	菓	菓	菓	菓	菓	菓	菓	菓	菓
料	器	製	製	製	製	製	製	製	製	製	製	製	製	製	製	製	製	製	製	製
其	他	價	額	額	額	額	額	額	額	額	額	額	額	額	額	額	額	額	額	額

六 六 六 六 六 六 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 〇
 五 四 三 二 一 〇 九 八 七 六 五 四 三 二 二 二 二 一 一 〇

農 産

生産價額壹億貳百六拾九萬參千七百四拾六圓

本縣の耕地は田八万九千三百五町二段歩畑三万六千二百二十一町六反歩にして農戸數十五万三千三百二十一戸人口八十万三千八十五口を有す而して地勢の南北に依り氣候に差異あり雨量に厚薄あり隨て昔年に於ては生産に著しき徑底ありしと雖も近時耕種肥培の方法大に進歩發達せしと施設獎勵機關の完備とよ依り山陰地方に接する寒冷地に在りても南部地方に遜らざるの秋收を見加ふるに特用作物の増加と園藝の發達産物の増加等に依り益生産増加の現象を呈するに至れり

米

本縣の氣候風土は能く米作に適し山間僻地と雖も苟も水利の便を有するの地之が作付を見ざるはなし其栽培反別は全耕地反別十二万五千五百二十六町八反歩中八万八千四百三十六町歩の水田と二百二十九町六反歩の畑地とを供用せり而して諸般の施設も重きを本作に置き作法の改善品種の統一病蟲害の驅除豫防乾燥調製等銳意獎勵の結果著しく顯はれ近年良

質多收の實蹟を擧ぐるに至り優良米に屬する雄町日の出吉備穗多平選若くは之に類する系統産米は全国各地の酒造用として歡迎せられ殆ど其需要に應ずる能はざるの盛況を呈せり而して優良品種を多く産出するは赤磐和氣上道、上房、吉備、都窪、久米等の諸郡とす

麥

麥は米に亞げる重要農産物にして其耕種其他の施設も亦米と略同一にして其栽培反別は五万九千九百六十七町六反歩を算す近時最も産額の増加を來したるものを小麥とし製粉原料として縣外に移出す其重なる地方は兵庫、神戸を最とし香川、大阪、京都、廣島外十縣に互る優良品種として最も普及せるものは島田小麥なり

稗麥は作付反別二万七千四百九十七町三反歩にして縣外に輸出するものは十萬石内外なりとすコピンカタキ矢筈種の麥稈は本縣貿易品中に權威を有する麥稈真田紐の原料として歡迎せらる

大 麥

大麥は作付反別一万二千六百八十八町二反歩にして縣内消費の外馬糞として糶秣廠の購買

に應じ其歡迎せらるゝ所となる
最近産額左の如し

品名	收穫高	價額	主要産地	移出先
米	一、六九七、七三三 ^石	六四、八三三、三二 ^円	都窪、淺口、赤磐、和氣其他各郡 兒島、都窪、上道、吉備、御津、邑久、淺口、赤磐、小田、後月	兵庫、大阪、京都、紀伊、外約三十余ヶ所生産の約四割兵庫神戸香川大阪京都、廣島外十縣
小麥	二、四、三四四	四、六九七、七〇〇	淺口、小田、吉備、赤磐、兒島の各郡	
大麥	二、四九九九	四、四三三、〇五九	川上、眞庭、上房、阿哲、久米の各郡	
大麥	一、八、四三二	一、四六、九六六		

禾穀類の數量價額左の如し

品名	産額	價額	主要産地	移出先
粟	三、三九三 ^石	三三〇、二四七 ^円	淺口、小田、川上、阿哲	主として縣内消費
稗	八二	六三三	眞庭	同
黍	九、四九一	一三、一四〇	淺口、川上	同

豆穀類の數量價額左の如し

蕎麥	二、三九八	二二、七三三	小田、川上、上房	同
玉蜀黍	九四三	一〇、七九	阿哲 眞庭	同

品名	收穫高	價額	主要産地	移出先
大豆	四、三三三 ^石	七〇、八八九 ^円	眞庭、久米、阿哲	主として縣内消費
小豆	一、五、三八三	二八、一七七	川上、小田	大阪白小豆を移出す
豌豆	三、三四八	七、四〇五	兒島、淺口	主として縣内消費
蠶豆	一、三、六一九	三六、一四〇	兒島、都窪	同
菜豆	一、八一	三、七九五	上房、眞庭	同
大豆	五、八九七	一三、五三三	小田、淺口	同
落花生	一、三八五	一八、六六六	淺口、吉備	同

蔬菜類

近時市街地附近に在りては新蔬菜の需要益々増加せしより漸次良種に改め又促成栽培に依りて販賣に供するもの多く村落に於ても優良の種子を原産地に求めて栽培し良種を産出するに至れり而して古來地方の特有にして人口に膾炙せるもの乏しからず殊に其著名なるものは岡山の出石菜菔、促成萓、御津郡牧石村の中原胡蘿蔔、後月郡芳井、明治村の宇戸川牛蒡、吉備郡大井、岩田村の足守牛蒡、英田郡江見村の日指牛蒡、邑久郡朝日、鹿忍長濱村の南瓜和氣郡熊山村の干瓢、上道郡沖田村の新田西瓜、都窪郡大高村の四十瀬西瓜、小田郡笠岡町の宮岡西瓜、兒島郡山田村の後閑葱、小田神島の甘藷、苦田郡院庄村の越瓜、御津郡芳田村の新保瓜、吉備郡穂井田村の陶菜、廣吉備郡備田村上道郡幡多村の孟草、筒後月郡芳井、明治、共和村の百合、都窪郡大高村の蓮根、上道郡高島村の雄町芹等なり

特に近時に至りて多額の産出を見るに至りたるものを掲ぐれば左の如し

馬鈴薯

馬鈴薯は本縣各地の農家に自家用として小面積の栽培を爲せしも多數の栽培を爲して海外に輸出するに至りしは邑久郡にして同郡に於ては明治三十二年頃に始まり以來漸次増加し現今の栽培反別は四百六十町歩に達し多額の産出を見るに至る最近の産額は左の如し

數量	價額	主産地	販路
二、五五、七三	五、五、八二	邑久、兒島、和氣、御津、阿哲、眞庭、勝田、英田の諸郡	馬尼刺、香港、西貢、新嘉坡

南瓜

南瓜は農家一般に自家用として極めて少量づゝ栽培するを普通とす本縣に於て南瓜の産地として廣く世に知られたるは邑久郡にして同郡に於て販賣を目的として栽培し始めたは明治十年頃なり當時の販路は極めて狭少なる區域に限られたりしも縣外輸出の途開け漸次栽培反別を増加し近年に至りては栽培反別四百八十一町餘歩に達す最近の産額は左の如し

數量	價額	販路	主産地
一、七〇四、二八五	二、四九、五七五	大阪、神戸、吳、廣島、下ノ關、高松、丸龜及縣内	邑久、皆田、上房、御津、上道、和野の各郷

前記以外の生産額を掲ぐれば左の如し

品名	收穫高價	額	主産地	販路
甘藷	一三、八九四、二九九	一、四二、七七八	小田、淺口	大阪兵庫約五分移出
青芋	一、七三〇、六九三	五、四〇、八八一	川上、後月、吉備	阪神少數移出
蒟蒻	一、四六九、一四〇	八七、九五五	川上、後月	製粉として移出す
佛掌薯	二四、三九九	八三、〇八五	川上、後月	主として縣内消費
薑	二四、七〇六	一六、五三七	和氣、淺口、川上	同
食用百合	三、四八七	五、三九三	後月、川上、英田	神戸、大阪一割五分移出
菜	二、三五〇、七八	六〇、三四	小田、淺口	主として縣内消費
		三六、八七一	淺口、勝田、阿哲、眞庭	同

品名	收穫高價	額	主産地	販路
水菜	三、四八、八三三	四六、九〇三	小田	同
菠菜	一三、一六九	九、一七九	御津、兒島	同
甘藍	二〇、三六四	五、八五九	上道、吉備	同
芹	八、九一五	三、〇一六	上道、川上	同
蘿蔔	一三、八九二、二七	八九、一六三	淺口、小田	阪神少數移出
葱	六、六〇六	一三九、五七八	上房、淺口、御津	主として縣内消費
葱頭	八、九〇〇	三、五九八	兒島、淺口	同
牛蒡	七、四九、三〇	二七〇、八五	後月、淺口、吉備	兵庫、大阪少數を縣内消費
蓮根	五、〇一、三〇	二七、〇三九	都窪、淺口	兵庫、門司、下の關生産の約四割移出
葱	二、一八九	一、六六五	同	主として縣内消費
胡瓜	四、八六、七七一	一七四、二二八	上道、都窪、吉備	阪神、廣島、山口生産の約二割を移出
白瓜	三、四八、四六	五、〇七二	上道、上房	主として縣内消費
西瓜	二、八、二〇	五、八三三	邑久、都窪	阪神生産の約三割を移出
甜瓜	三、三三、三三	一四、四三	邑久、皆田	同
	三、九、二〇	四、一八九	淺口、都窪、邑久	同

特用農産物

葉煙草

本作物は山村の重要農産にして又本縣の重要物産たるを失はず本縣産の煙草は大別して備中煙草、山中煙草とす備中葉は上房、川上、阿哲、御津郡を主産地とし山中葉は所謂作州煙草と稱

胡麻	燕窩	胡蘿蔔	款冬	高麗	茄	干瓢	雜瓜
九三	四八五、三〇四	一六九、一八九	四八、四九〇	三三三、二六	一、二四六、七八	六二、〇六五	三三、一七一
三、七七一	三、〇九〇	三、〇九〇	二、一八六	二、〇六六	二、三三三、二四	一、七三、〇九七	三、四、二一〇
淺口、眞庭、吉田、都窪	赤磐、和氣	岡山、上道、勝田	川上、上房	兒島、吉備	御津、淺口	小田、勝田	同
同	同	同	同	同	同	同	同
少數を移出す	同	生産の約二割五分移出	主として縣内消費				

葉藍

し眞庭郡の湯原以北の數ヶ村に産するものにして火力乾燥にかゝれるを以て一種の臭氣を帯へり專賣法實施以後大に改良せられ殆ど隔世の感あり縣に於ては明治四十一年度より煙草耕作獎勵費を置き水戸桑野等より教師を聘備し改良を計畫せる郡農會又は煙草耕作組合に對し之を交付せり現今に至りては主産地の各郡農會は苗床の仕立より乾燥調理に至る迄教師の指導に依りて改善の實を擧げつゝあり最近の産額は左の如し

作付反別	數	量	價	額	主産地
二、三三、三三	九三、三三三	二、〇九、〇〇	上房、川上、阿哲、眞庭、後月、久米、御津の各郡		

葉藍の栽培起原は知るに由なきも古老の言に阿波葉と稱するに徴すれば其初阿波より移植傳播せしものならん而して明治十年前後迄は大なる栽培を見ざりしも其後漸次増加し同三十年に至る二十年間を通し概して盛況を呈せり其後彼の人造藍の輸入を見るに至りて價格

低落し栽培漸次衰退し殊に大正元年より二年に亘りては最も衰微の極に達せり偶歐洲戦亂の爲め人造藍の輸入杜絶し藍栽培の復活を見稍活氣を呈するに至れり最近の産類左の如し

作付反別	敷	量	價	額	主産地	販路
三六、四 ^{町反}					御津、小田、後月、上房、川上、阿哲、眞庭の各郡	縣内を主とし畿部縣外に輸出す
一〇六、八六 ^{町反}				七〇、六元		

蘭草 岡山縣蘭草同業組合は岡山市下石井に在り

蘭草は疊表花蕙、芙蓉、蘭産其他各種蘭製品の原料として需要甚廣し而して其製品の大部分は輸出品たるを以て需要の多寡價格の高低も年に依り甚しく爲めに一盛一衰ありて作付反別も一定の標準なく増減豫測すべからず明治三十五年三月同業組合を設置し蘭草栽培の指導検査の施行、販路擴張等に關し努力せし結果益盛況を來し全國中に於て第一位を占むるに至れり販路は加工品としては海外及縣外に輸出し未製品は關東、北陸近畿地方なり蘭草は往古に在りては江頭水涯に野成のものなるを疊表、芙蓉の製作に用ゐらるるに依り初めて水田に

肥培するに至りたるものなるを疑はず那寒に水田に移植し酷暑に蒔取を爲す其生産の勞苦は想像の外に在り最近の産類は左の如し

作付反別	敷	量	價	格	主産地
一七、四 ^{町反}					都窪、兒島、御津、吉備、小田、後月の各郡
二、八七、〇二五 ^{町反}				四、一五、七六	

除蟲菊 岡山縣除蟲菊同業組合は小田郡笠岡町に在り

除蟲菊の栽培は明治二十二年小田郡笠岡町渡邊小平太なるもの紀州有田郡より種苗を購入栽培せしに始まり其後約二十年間は一局部に試作的に栽培せらるるに過ぎざりしが海外輸出の途開けたると内地需用増加とに依り漸次栽培反別を増加し大正六年に至りては其反別千四百余町歩を算するに至り同年五月同業組合を設置し作法の改良、販路の擴張を圖り益發達を來せり特に歐洲戦亂の影響を受け西歐の産出減少せる爲め好況を呈し其生産額は全國中第二位を占むるに至れり之が製品は除蟲粉、蚊遣線香の二種にして後月郡西江原村、淺口郡

玉島町に製造工場あり最近の産額左の如し

作付反別	数	量	價	額	主産地	販路
六八、〇	二六、〇〇九		六、二六四		小田、淺口を主とし吉備、後月、邑久郡之に亞ぐ	紀州及阪神地方英、米其他諸國

果 物

岡山縣果物同業組合は岡山市中出石町に在り

本縣の果樹園藝は兩備の南部に發達せり其起原は備中足守藩主にして文久年間上州前橋地方に人を派し梨樹栽培方法を傳習せしめ吉備郡六井村外數ヶ村へ六町歩の梨園を創設せり偶維新の變革に遭遇し廢園に歸したるも其梨樹を領内希望者へ分與せしを以て其遺傳せる赤龍種漸次傳播せり明治十一年小田郡今井村渡邊淳一郎山腹、丘陵の荒蕪地利用の目的にて桃李の栽培に著手し御津郡野谷村に於ては大森熊太郎、山内善男等葡萄栽培を教むるあり當時にありては果樹栽培業は冒險を以て目せられたりしも世運の推移は漸く果物の需要を促し赤磐郡可真村小山益太、小田郡新山村長尾圓澄等亦熱心に肥培の方法を研究し販路の開拓

に力を致し年と共に長足の進歩を遂ぐ明治四十四年果物同業組合を設立し栽培の指導、種類の改良、販路の擴張を圖り追次堅實の發達を來し現今に於ては全國中本縣を以て果樹園藝地として推稱せられ年産額は參百萬圓に達せんとす其種類は左の如し

桃

桃は品質産額共に全國に於て第一位を占む品種は魁アムステンジョン、天津、東雲、離核、土用、上海白桃等にして時に新種を出せり

梨

梨の栽培は一時長足の進歩を見たるも明治三十年前後に於て赤星病の被害劇甚の爲め一大頓挫を來せしが豫防法の研究に依り復活の機運に會せり品種は獨逸、長十郎、二十世紀早生、赤、晚三吉、赤龍等なり殊に晚三吉、赤龍は貯藏に堪へ二十世紀は原産地たる千葉を凌駕せり特に近時西洋梨の栽培著しく増加し優品を出すこと亦少からず現今に於て全國中第一位を占むるに至る品種はダンクレーム、パートレット、オリエンタル、キーパー等とす

葡萄

葡萄は最初醸酒の目的を以て歐洲種を栽培せしも殆ど失敗に終れり然れども一方生果の需要多きを致せるを以て栽培漸く増加し明治卅年前後より栽培容易にして而も品質優良なる米國種の輸入に依り益々之を栽培するもの多きに至る又明治廿年頃御津郡野谷村山内善男等葡萄玻璃室栽培を試み其結果良好にして需要亦多きを加へたるを以て之に倣ふて栽培するもの多く目下露地栽培の主なる品種はカトーパ、キャンベルスアーリー、ナイヤガラ甲州種等にして玻璃室栽培の品種はブラックハンブルク、マスカット、オプアレキサンドリヤ等なり

柿は古來より邸内又は田畑の畦畔等に自然の生育に委せられたるもの多く西條柿は到る處良品を産す新品種富有柿御所柿は最も歌神地方に歡迎せらる

苹果は一時栽培者多かりしも綿蟲猖獗にして之が驅除に要する藥品勞銀等騰貴の爲め著し

栽培を減せり

柑 橘

柑橘は南部沿海地方に栽培せらるる種類は温州、ネーブル等なり

無花果、枇杷

無花果枇杷は共に産額多からざるも年を逐ふて増加の傾向を呈せり
以上果物の最近産額左の如し

品 種 名	數 量	價 額	主 産 地	販 路
桃	一、八五、四四	七六、三三	御津、赤磐、小田、淺口	京、阪、神
日本梨	一、一〇、三〇	三九、〇三	上道、赤磐、兒島、邑久	阪、神、九州、朝鮮
西洋梨	二四、六二	八八、七六	赤磐、上道、御津	神戸、東京、横濱、浦鹽
葡萄	四〇〇、二九九	一八、二四八	赤磐、上道、御津、兒島	九州、阪神地方
生柿及干柿	三、四四、六九〇	六四、八三	美作一圓、御津、都窪	京、阪、神

種 類	産 地	主 として
枇 杷	御津、赤野、都窪、淺口、小田	主として縣内消費
無 花 果	同 上	
柑 類	兒島、淺口、小田、都窪	京、阪、神
梅 類	勝田、都窪	阪、神
雜 果	淺口、兒島、御津、邑久 兒島、吉備	縣内消費
計	二、七九八、六四二	

茶

本縣に於て茶の生産最も多きは英田郡及眞庭の天然茶にして製品は玉露煎茶、番茶とす玉露は産額極めて少なく煎茶は輸出向として神戸の間屋に取引す縣に於ては茶業組合に對し年々獎勵金を交付して事業を助成しつゝあり最近の産額は左の如し

茶園面積	數	星	價	額	主 産 地
三、七、四、四町	一、八、三、〇〇	一、四、六、九、〇五	英田、眞庭、御津、後月の各郡		

畜 産

生産價參百七拾貳萬四千六百九拾圓

牛

本縣は古來和牛の産地として其名を知られ就中千屋牛(阿哲)高山牛(川上)新庄牛(眞庭)加茂牛(菅田)は夙に役肉用として普く世の賞讃を博せり本縣に於ては明治二十八年初めて縣獸醫を設置し爾來畜産の指導、獸疫豫防、畜牛結核制遏に種牡牛馬及畜牛馬匹の獎勵、牧場設置、牝馬種付所設置、畜産団体、共進會等に對し獎勵補助金の交付其他有ゆる改良事項を實施し三十七年種畜場を設置し種牛の供給、牝牛委託試驗、畜産指導、牧草栽培、乳肉の加工、豚、綿羊、山羊の飼養繁殖等専ら獎勵事項を遂行したりしが當業者の自覺奮勵努力と相俟て顯著なる効果を收め當初畜牛の改良方針たる在來和種を利用し漸も其特質、本能を毀損せず而も時勢に順應せる改良役肉用として理想的優良種を産出し備作種として各地に向つて利種改良原種を盛に供給するに至れるも尙時代の要求は益々體型の改善と能率の増進を要すものあるを以て更に大正十年和牛の名産地阿哲郡千屋に種畜分場を設置し専ら和牛の改良に努めつゝあり

乳用としては専らホルスタイン種エーアシャ種を以て改良を計り南部平坦地邑久小田の兩郡を主とし岡山市を中心として附近各郡に散在飼育し乳製品の製造と相俟て穩健なる發達を爲しつつあり

馬は明治三十九年以降生産地たる阿哲真庭吉田の三郡に國有種馬の種付所を設置し爾來年と共に馬格の向上を來しつつあり

縮羊

縮羊は大正七年政府に於て其飼育を奨励せらるゝや之か拂下を出願するもの多く飼育適地も亦少からずして主務會より技師派遣調査の結果同年度に於ては久米郡加美村を指定せられ同村清水源次郡に對し大正八年一月農商務省澁川種羊場月寒出張所よりサウスタウン種牝五頭シロツブシャー種牝四頭を下付せられ爾來飼育繁殖を圖りつつあり現在數五十頭に於て將來本業の發達見るべきものあらん

豚

豚は縣内各地に飼養せり縣種畜場は種豚を飼養して縣下當業者の種付に應じ且つ毎年一回其生産に係る種豚の拂下をなし以て之が改良發達を圖りつつあり現在數は壹千七百拾四頭なり

鶏

從來本縣の養鶏は遅々として振はず多く從來種を以て極めて小規模の經營に止まりしが時局の影響により卵肉の需要増加せると副業的經營として尤も有利なるを認められ最近に於ける養鶏熱は實に盛なるものあり既に淺口小田邑久等の諸郡に於ては異常の發達をなし上道都窪兒島諸郡之に次ぎ大正十年の飼育戸數六萬四千八百七十二戸其羽數二十八萬二千二百十七羽にして縣は農事試驗場に於て種禽を飼養して専ら種卵の拂下をなし改良増殖並に之か普及を計りつつあり最近に於ける重なる畜産産額左の如し

品 種 名	數 量	價 額	主 要 産 地	販 路
牛 馬	一四、三三〇頭	一、九六、〇六四	川上、阿智、真庭、苦田	香川、廣島、兵庫、大阪
豚	二〇、〇〇〇頭	三〇、〇〇〇	苦田、勝田、真庭、阿智	京都、東京、兵庫縣
牛 乳	一、二一九石	三、三六〇	兒島、小田、上道、御津	兵庫、大阪
屠 畜	三、八七九頭	三、六〇〇	岡山、御津、小田、邑久	
卵	七、八八七	一、二八、二七〇	上道、兒島	
鶏	二七、三〇、六五五	一、三七、六三三	邑久、上道、小田	

蠶 糸

育蠶 本縣蠶業の沿革は極めて古く美作及備中の兩國は上絲國として緋線綠黃繭練の調租を出せりと延喜式に載せられ岡山藩の舊記には萬治以前より一般に養蠶製糸業の行はれたることを記せり維新前にありては唯生糸を木綿織に織込又は但馬商人に生繭にて賣買するに過ぎず明治初年に至りて舊津山藩人等蠶業に志し屢々關東地方の状況を視察して歸るあ

り續て篤志者の信州地方其他に於て新業に就きて學ぶ所ありしが明治四年舊北條縣は勸業掛を特設し大に奨励せしむ經營方法の宜しきを得ざりし爲め失敗に歸したり同八年小田北條の阿縣は併合せられ同十年縣は苦田郡津山町に養蠶製糸傳習所を設置し群馬縣より教師を招き傳習せしに同十三年迄に卒業者貳百餘名を出せりと今日に於ける美作地方の蠶糸業は全く源を茲に發せり而して今や縣下到處蠶業を見ざるはなく殊に美作各郡備中北部及小田、後月、上道、邑久、和氣の諸郡を主要産地とし桑園反別六千余町歩收購額八十萬貫を越ゆ

製 糸

本縣に於ける工場的製絲業は明治七年京都府の島田某なるもの小田郡笠岡村に製絲場を設けたるを始とす當時同地方の養蠶業不振の爲め廢絶に歸せしも同九年同地の森田佐平等資本金壹萬圓を投じて同所に製糸工場を起し當時進歩せるケンチル式に倣ひ装置を爲し海外輸出を試みたり同人等は更に同十二年山陽精絲社を創立し地方の製糸家を網羅し一手に海外輸出を試みたる爲め名聲内外に聞け近鄰より傳習工女を送るに至れり其後諸所に製糸工

場を經營するもの續出し、幾多の變遷と盛衰消長を経て今日を致せり、現今製絲工場の重なるものは山陽製糸(小田郡笠岡町)中備製絲後月郡井原町、那是製糸分工場(苫田郡二宮村)東備製糸及三河製糸工場(上道郡雄神村)等にして其製糸釜數は貳千四百七拾七を算す

本業に對する施設

本業に對し多年に亙る縣施設事項の主なるものは桑園改良、養蠶組合設置、製糸共同揚返場設置、殺蛹乾繭器設置、蠶業技術員設置等に對し獎勵金交付規程を設けて獎勵金を交付し其設置を促し蠶病豫防に對しては蠶業取締所を縣廳内に其支所を津山、勝山、井原、林野に出張所を新見に置き、て検査施行に便ならしめ、縣立原蠶種製造所を苫田郡二宮村に建設し蠶種々類試験及製造配付並生徒の養成等を行ひ尙繭質の改良整理を圖る等極力新業の獎勵に努む、又團體としては大日本蠶糸會岡山支會を組織し縣廳内に事務所を設置し各郡に委員部を置き機關雜誌を發刊し會員相互の連絡を圖り且岡山縣蠶絲同業組合を組織し苫田郡津山町に事務所を設置し事業の改善發達に努むるあり、其他蠶絲品評會、講習會等を開催して新業の啓發に資する等縣の施設事項の遂行と當業者の發奮努力と相俟て近時著しき發達を遂ぐるに至れり

繭

最近の産額は左の如し

種名	桑園反別	養蠶戸數	掃立枚數	收繭高	價額
春蠶	六、〇三、六 <small>町反</small>	二五、三六	八三、五四	四四、一〇九	三、五二二、九九 <small>円</small>
夏蠶		二七、六九	九四、五五	三六、一〇七	二、四九〇、七四 <small>円</small>
計		五三、〇五	一七七、〇九	八〇、八三六	六、〇一三、〇三 <small>円</small>

蠶絲額

種名	製造戸數	釜數	數	量	價額
生絲	三三六	二、四七七	四七、三八	五、六八一、六三 <small>円</small>	一、八七〇、三三
屑絲				二、〇三三	五、八六八、八七 <small>円</small>
計				七、〇一六	一、八七〇、三三

林 産

生産價額壹千貳百參拾萬八千五百貳拾九圓

本縣の林野は臺帳面積三十二萬三千六百六十四町九反歩にして全縣地積の約六割五分を占め耕地面積の約三倍餘に當る内國有林二萬八千二百九十四町參公有林野十一萬六千二百五十一町四反歩社寺有林野四千九百四十九町五反歩私有林野二十萬貳千四百六十四町歩とす地質は花崗岩石英粗面岩秩父古生層大部を占め此間に諸種の岩層を夾雜し分布頗る複雑にして地味南部は概して瘠惡なるも中部に至るに従ひ漸次肥沃の度を増し秩父古生層の發育に伴ひ著しく膏腴となり北部花崗岩地方に至りては地味稍劣れり林況は全面積の約五分の四弱は樹林地とし南部は松樹多く中部は松樹に潤葉樹を混植し北部は純然たる潤葉樹林にして其間杉、扁柏等の人工植林地少からず其他は無立木地なりとす而して縣に於ける林業に關する施設事項の大要を舉ぐれば營林の指定公有林野、社寺有林野の整理、保安林の設置、砂防工事、荒地復舊工事、林業技術員、森林監吏、砂防監吏の設置、公有林野並一般民有保安林の施設、計畫案の編成、縣苗圃の設置、苗圃事業並公有林野の造林及竹林造成に對する補助獎勵縣有模

範林の造成、保安林開墾制限禁止地に標識建設等にして其結果林業上顯著なる効果を收めたるもの夥からず就中保安林設置及砂防工事並荒地復舊工事の施設は漸次其林相を改め今や多くの禿山は變じて鬱蒼たる森林を形成し往時に於けるが如き洪水の災厄殆ど其跡を經ち連年の旱害に苦みし地方も近年自ら雪霽を呼び驟雨時に至りて禾穀の豐稔を來し治水上は勿論林業經濟上與へたる利益は實に多大なりとす

製 材

時勢の進運に伴ひ漸次用材の需用増加す殊に歐洲戰亂の結果工業界の勃興は著しく需用を増加し價格も亦未曾有の昂騰を見るに至り大正五年以前に在りては一ヶ年平均用材二十五萬石内外の生産なりしに六年以降は一躍四十萬石以上を上り内普通建築用其他包圍箱板材として製材されるもの約三分の一を費消せり隨て縣内各地に於ける製材工場百十ヶ所以上の多きに及べり最近の産額は左の如し

數量	價額	主産地	販路
七〇、七〇〇、七〇〇	二、四〇〇、七〇〇	阿智、眞庭、苦田、勝田、英田、上房	大阪、神戸、兵庫、香川、廣島

石 材

本縣中央以南に産する花崗岩中には其質緻密堅硬にして鑿目なき良好の石材を出す就中小田郡北木島産は最も組織緻密にして鮮白色を呈し御津郡萬成山より産するものは稍粗質なるも淡紅色を帯び共に美觀を添へ各特色を有し良材を以て名あり邑久郡犬島は古くは豊公大阪城の築城に近くは大阪市の築港に巨額の石材を供給し本島爲に平地となり復其採掘を見ず近年岡山石材株式會社石材の採取を經營するに至り東京、名古屋、阪神の大都市を初とし北海道九州臺灣等に販賣す最近萬成及北木島産の明治神宮御造營の用に充てられたるは誠に榮譽にして良材の名益世に著はるるに至る最近の産額は左の如し

價 額	主 産 地	販 路
七六、六七 ^四	小田、邑久、和氣、御津	東京、横浜、大阪、神戸

木 炭

苦田郡木炭同業組合 苦田郡津山町
 英田郡木炭同業組合 英田郡野町
 阿智郡木炭同業組合 阿智郡新見町
 川上郡木炭同業組合 川上郡成羽町

に在り

木炭は本縣中部以北の各郡より産出す縣下の産額は年に依り消長あるも大正七年の産出は一千萬貫を超はたり近時一郡を以て地區とせる同業組合を四ヶ所に設立し尙一ヶ所に設立中なり近時製炭法の改良に努力せし結果優品を産出するに至る本品は原料豊富にして前途益々有望なり最近の産額は左の如し

數 量	價 額	主 産 地	販 路
10,010,113 ^三	二,三二一,二六 ^四	阿智、川上、眞庭、苦田、英田、御津、和氣の各郡	岡山市、兵庫、神戸

五 倍 子

五倍子は何れの時代より採取使用せしものなるか沿革詳ならず古代より野生のものを採集せしものならん現今に於ける産額年々一様ならず之が原因種々なるも五倍子蟲發生の多寡に依るもの主因なるべし本品は媒染料として又鞣皮用として用われ卑寧酸として醫藥に又黒色インキの原料に使用するが故に化學工業の發達に伴ひ需要益々増加するの見込あり

最近の産額は左の如し

産	額	價	額	主	産	地	販	路
	一五〇、三六〇 ^円		四六〇、五五〇 ^円	御津、久米、眞庭、苦田、吉備、上房、川上の各郡			阪神、東京府	

三 極

三極は明治十五年頃迄は僅に耕地の畦畔等に栽植するに過ぎず其産額極めて僅少なりしが爾後漸次其栽植を増加し近時に至りては畑林野に栽植する外造林地前作又は間作事業として栽植するもの多く爲に多額の生産を見るに至れり殊に眞庭郡に於ては大正二年高知縣より大葉種子を購入し苗木を仕立希望者に配付する等之が改良増殖を圖れり最近の産額は左の如し

數	量	價	額	主	産	地	販	路
	三〇三、七三三 ^斤		四七、七六九 ^円	美作、備前、備中、阿智郡			大部分縣内製紙會社へ販賣其餘は福井、岐阜、東京其他京阪地方へ移出	

松茸其他の産額左の如し

(拾萬圓以上)

品	名	數	量	價	額	主	産	地	販	路
松	茸		三二五、八四九 ^斤		一四六、〇三三 ^円	和氣、赤松、御津、小田、後月、川上、上房			大阪、神戸	
柴	草		二五、三三五 ^斤		一、〇四三、九三三 ^円	全			大阪、神戸	
土	質				三三、三六九 ^円	和氣			大阪、神戸	

鑛 産

生産價額參百九拾七萬七千五百九拾五圓

本縣の地質は古生紀に屬する粘板岩輝綠凝灰岩豊富にして幾多の火成岩其間に迸發するを以て各種の鑛床に乏しからず隨て鑛物分布頗る廣し而して鑛種は銅最多し之に亞ぐものを礫化鉄、銀、格魯鉄、重石其他金、錳、石炭等とす最近採掘坪數三十万九百六十三坪試掘鑛區ヶ所四百七十一ヶ所其坪數一億六千三百八十三万八千二百九十九坪なり最近の産額左の如し

精	立	獨	出 産 物 礦			品 名	販 賣 數 量	販 賣 價 額	主 要 産 地	輸 出 先										
			煉	精	未						煉精									
鉄	銀	鉛	鼠	綠	型	石	格	鐵	銀	金	含	金	銀	型	銅					
						計	魯	謨	炭	鉄	炭	鉄	炭	鉄	炭	鉄	炭	鉄	炭	鉄

(未精煉に係るものは縣内精煉所に輸送す)

水 産

生産價額七百六拾貳萬六千九百四拾五圓

煉	計
	二、五九、七五七
鉄	三、九七、九五五

本縣に於ける内海漁業は沿岸線全長百二十里領海の幅員狭きは二町廣きも五里を出せず如此漁場の狭少なるに漁業者は専業戸數四千人口一万九千七百餘兼業戸數七千參百人口一万六千九百一里に對する漁民の數實に三百餘人なり

沿海に於ける漁業の主なるものは定置漁業に在りては坪網最も多く樺木建干之に亞ぐ區劃漁業に在りては灰介牡蠣海苔養殖を主とす許可漁業に在りては打網網最も多く黒網撒餌釣藻打網手繰等亦盛なり自由漁業に在りては釣及貝採其大部分を占む而して之が漁獲の消長を按ずれば養殖魚介等は漸次増加せるも其他は漸減の傾向を示し加ふるに航海の頻繁愈其度を増し且沿岸島嶼は各種工場の新す所となり漁獲の命脈頗る危殆に瀕せるを以て之が救

濟業として縣に於ては明治三十一年以降遠洋漁業に對しては出漁及新造船に補助金を交付し明治三十五年岡山縣水産試驗場を設置して各種試驗を施行して新業の啓發指導獎勵に努め其他漁業組合の整備水産會の組織漁業の進展漁村の革新等當業者の自覺奮勵と相俟て朝鮮に移住漁村を建設し各種の設備を完成し移民其緒に安んずるの偉績を奏するあり淡水漁業として口鯉苗を配付し養殖を促したる結果養鯉の池沼面積五十二万五千町歩に達するの効果を收め其他縣下三大河川及其支流に産する鮎は年と共に産額を増加せり尙最近に於ける水産試驗場の鮎鱒の人工孵化及養魚餌料比較試驗、牡蠣養殖試驗、淺海の利用並試驗船の新造に伴ひ朝鮮海網漁業及南海出漁試驗築磯飼付等の試験調査を爲し水族の増殖と遠海出漁の指導獎勵に努めつゝあり

最近の産額左の如し (拾万圓以上)

魚	名	稱	數	量	價	額	主 要 産 地	移 出 先
鮎	サワラ		一四九、七〇四		六〇四、二〇二		和氣、邑久、兒島、淺口、小田	縣下、京阪

食 糧 岡山縣製鹽同業組合兒島郡味野町に在り

食鹽は去明治三十八年鹽專賣法實施に依り整理したる鹽田反別は殆ど固定的不動の状態となり従て産額に於ても大なる消長を認めず時に天候の影響に依り多少の増減なきにあらざるも近時專賣局の誘掖指導と當業者に於て同業組合を設立し奮勵努力の結果とに依り鹽原

水産製造物	類					價	額	主 要 産 地	移 出 先
	鮎	鰯	鰯	鮎魚	鰯				
タコ	エビ	ツナシ	チヌ	イナ	ウナギ	ハモ			
二八、七六六	二四、七二六	八四、五八〇	四八、四六四	一〇三、九九三	四三、四八三	三三、七六四	同	同	同
三〇三、二二四	一九、〇二二	一一四、三六七	一一七、六三三	一五、九八七	一七、七六六	二〇九、九三三	各郡	縣下大阪	同
三〇七、八七七	同	同	同	同	同	同	和氣、邑久、兒島、淺口、小田	縣下、香川、京阪神	同

鹽の産額を増加し劣等鹽は漸次減少し堅實なる發達を見るに至れり最近の産額は左の如し

鹽田反別	數	量	價	額
町反		九〇、三三、五〇		三、四八、七五八
町反		四五、四、七		

工業

生産價額壹億八千五百八拾壹万五千參百參圓

本縣の産業は軌近著しく發達し就中各種製造工業は時局の影響を受け岡山市を中心として勃興し其製品饒多而も尙ほ需要に應ずる能はざるの好況を呈したりしに偶戦後財界の反動に際會し現時不況の裡に在るが如しと雖も市況恢復の時運到來し隆昌の域に到達するは蓋し遠きにあらずるべきを信ず

綿糸紡績

明治十二年政府は士族授産金を以て二千鍾紡績機械を英國より購入し綿産地を選ひて貸下を促せり翌年本縣に於ては難波二郡三郡の出願に依り一基を淺口郡玉島町に一基を渾大坊

埃二の出願に依りて兒島郡野浦町に拂下けられ前者を玉島紡績所後者を下村紡績所と稱す又同年岡山舊藩士授産の爲め池田舊藩主の保護と政府貸付資金とに依り岡山市網の濱に二千鍾の紡績所設立せらるゝあり然れども事創業に屬し厚き政府の保護も經營困難に陥り輸入綿糸防遏の効を奏するに至らず其最大原因は動力に對し鍾數少き爲め經費に比し利益の少きと技術に不熟練なるとに十年戦後紙幣の濫發及之が消却に伴ふ紙幣價額の變動並に原綿及糸價の變動甚しき等に依るもの如し二十二年十月倉敷紡績の新設あり二十六年より二十八年の間に於て柏崎紡績笠岡紡績備前紡績三十年七月四大寺紡績大正四年に倉敷紡績萬壽工場大正五年倉敷紡績早島工場等創立するありて其工場數拾壹ヶ所を算す爾後内外の事情變遷曲折盛衰消長の裡に經過して歐洲開戦に當り爲替の杜絶、船舶の不足、海上の不安、保險料高率を來したる等に依り對支貿易に一大打撃を與へたるが青島の開城當時より銀塊騰貴の爲め市況を恢復し歐米品の供給杜絶に伴ひ支那印度方面の需要俄に増加し綿價の騰貴と共に好況を呈したりしが大正九年に至り財界の反動期に入り世界的不景氣の強襲を受け現時市況不振の中に在りと雖も最近の産額は七百貳拾四万九千六拾貳價額五千貳百七拾壹

万五千七百貳圓に達し實に本縣工產品中の巨擘たり
絹糸紡績

絹糸紡績は明治三十年三月の起業にして現に錦淵紡績株式會社の經營たり最近の産額は六
萬壹千百拾九貫價額四百拾九萬六千貳百四拾九圓なり

花 薙 岡山縣花薙同業組合は岡山市上石井に在り

本縣の花薙は明治十一年都窪郡茶屋町磯崎職能を以て發明の鼻祖とす錦莞薙と稱するも是
なり後同町の藤原丈七綾薙機を發明し又吉備郡庭瀬町高塚常吉花薙機を完成し紋花薙飛
込薙機耳組機の發明あり明治十三年磯崎職能始めて神戸商人の手を経て英米二國に販路
を求め多少の注文を受けたり明治十七年岡山市今谷直平は獨逸商人に十八年に米國商人と
賣買の契約を爲せり是れ本邦花薙輸出の端緒なりとす當時の製品は貳間物なりしを貳拾間
の長物となせり明治二十三年の頃製薙會社起り二十六年紋花薙の發明あり製造家の續出し
粗製濫造の結果と需要不振の爲め盛衰ありしも蓋し明治四十年前後は本業の最盛期と謂ふ

べし其後需要の變遷に依り一時輸出額の減退を來し加ふに歐洲戰爭の影響を受けたるも内
地需要の如きは疊代用として逐年増加を示し其製産額は全國中常に第一位を占め居れり本
業は往年工場工業として發達せしもの現今に於ては家庭工業に變轉せり

野 草 薙

野草薙は大正二年の頃製造を開始したるものにして本業の勃興は米國に於て歐洲戰爭の際
本品の工場及職工を徵發せられ殆ど休業の状態に陥りしが爲め本邦の製産品を代用するに
至りたるに基因せり原料としては藁、藁等を用ふ何れも原料潤澤にして不足を告ぐるることな
し農家は藁、藁を精製して機械に供する原料を造るに止まる最近の産額左の如し

種 名	數 量	價 額	主 産 地	販 路
花 薙 長 物	五二、七二 <small>本</small>	五、六六、四四〇 <small>円</small>	都窪、淺口、吉備、御津、兒島	米國を主とし其他の諸國並内 地各所
同 其 他	一、一九九、四九九	五、四一、四九六	同	
野 草 薙	—	二〇一、二九九	都窪郡撫川町、早島町、妹尾町	米國、支那、布哇、南洋等

疊 表

岡山縣疊表同業組合は岡山市下田町に在り

本縣の蘭草は其質柔順にして備后間の如く剛硬ならざるを以て之を花蓮に製すときは錦莞
 蓮の如き緻密なるものを得之を疊表に織るときは足觸能く耐久方に富み而も其價格は頗る
 低廉なるを以て備中表の名全國に普く販路甚だ廣し往昔より備后表と相拮抗し輸す所あり
 しが機械の改良と技術の進歩とに依り製産を増加し需要も亦倍加し遂に相譲らざるに至る
 明治卅三年同業組合設立以來品質著しく改善せられ販路益々擴張し近時東北々海道地方生
 活程度の向上に伴ひ此地方への販路大に開拓せられ今や全國到らざるの地なく又最近喧民
 地への輸出逐年増加し益々隆盛の域に進めり製品種類は中髯小髯引通英産着産其他等とす
 最近の産額は左の如し

數量	價額	主産地	販路
三〇六、五三	三、四八、三三	岡山市、御津、上道、吉備、兒島、都 窪、淺口、小田、後月	内地及滿鮮地方

麥稈眞田及經木眞田

岡山縣眞田同業組合は淺口郡三和村に在り

麥稈眞田は明治十五年頃上房郡長時任義當清國駐在領事の報告書に依り之が有望なるを知
 り郡内有志を説き金壹百圓を贈出し高梁町中村三平を東京府下大森地方に派し傳習せしめ
 同町に於て平打眞田の製造に著手す普通眞田は明治十六年頃淺口郡寄島町頃末勝吉なるも
 の麥稈買入業の有望なるを知り麥稈原料の賣買を開始し組紐製造教師を雇入丸五平、丸七平
 眞田を製造し神戸の外商に賣却したるを以て起源とす
 經木眞田は明治三十四年備后福山町の商人工場を川上郡成羽町に設け白楊樹を以て經木を
 造り之を外商に賣却せしに起源し同町藤原俊太郎工場を設けて初めて眞田に編成せり爾來
 數年は主として麥稈に混製せしか明治三十九年に經木三平を造り貿易に供したり要するに
 細眞田は上房郡に創り大眞田は淺口郡に起り經木眞田は川上郡に發し何れも漸次産額を増
 加し大正元年は其産額參百拾萬圓に上れり其後組紐製造に依り信用を失墜せしと眞田の
 劇増に依り又歐洲戰亂の影響を受けて一時不況を來し製産を休止するの慘狀を呈せしこと

ありしも大正五年より漸く回復せしが近時復戦後經濟界變動の余波を被りて不況の程にありと雖も尙能く生産額に於て、全國中其第一位を占む本業は老幼男女指頭の作業にして自家の原料を以て生産するものの如きは利益少なからず最近の産額は左の如し

種名	數量	價額	主産地	販路
麥稈 眞田	四、九七、三三七	三、一〇四、三六〇	淺口、小田兩郡	神戸輸出より英、佛、米、丁
經木 眞田	一六、七〇九	一九、七三九	岡山、御津、赤松、和氣、上道、吉備、上房、川上、眞庭、吉田	抹、加奈太、濠洲等に輸出す
麻 眞田	九、五二〇	七、〇六四		
計	五、一六五、五六六	二、三三二、一八三		

織物

本縣の南部は昔時棉花の産地にして各自手紡に依りて糸となし自給し着尺地織色木綿小倉帯地袴地等を製織し他國に販賣して好評を博せり此産地たる兒島後月の地方は當時製織の方法未だ幼稚にして原糸は手紡太綿糸を用ひ染料としては木葉、草根を用ひ且赤土を溶解し

て染色を行ふものありしと云ふ然るに其後紡績糸と人造染料の輸入あり之が爲め製造の面目を一新し續て製織器械の發明に依り動力を使用し染色も亦硫化染料を用ふる等長足の進歩を遂げ今日の隆盛を致し山村水郷處として投移の音を聞かざるなく其製産額は巨額に上り關西の大機業地を以て稱せらるるに至れり又邑久、上道の一部其他各郡市に於ける製織事業も大に進歩發達し最近の年産額は四千貳百九拾八萬五千圓餘に達せり而して現今兒島郡に製産するものを備前織物と稱し袴地を筆頭に着尺地、雲齋、小倉等を主なるものとし輸出製品は支那人用腰帶子とす小田、後月郡に産するものを備中物産織物、中備織物と稱し小倉を主なるものとし着尺地之に亞ぐ邑久、上道郡に産するものを邑久、上道織物と稱し主として雲齋を産す

縣内製産種類 袴地、帶地、腰帶子、足巻ゲートル、紐類、小倉服地、淺黄木綿、縞木綿、蚊帳地、タオル、シーチンク、ベツチン、アンタークロス、廣中木綿、雲齋、白木綿、紋羽、前掛地、厚司、色木綿、帆布、洋燈、蠟燭芯等なり

販路は大阪、京都、名古屋、東京、埼玉、姫路、關西、九州、四國、朝鮮、臺灣、支那、南洋、印度等とす

同業組合は左記四ヶ所に設立し染色の濃度地質の堅牢織の密度織物の幅長其他一切に關する取締事項を規定し品質の改良販路の擴張等あらゆる方面に努力しつゝあり

名	地	區	事務所々在地名
備前織物同業組合	兒島郡一圓		兒島郡灘崎村大字迫川
岡山縣輸出織物同業組合	同上		同 琴浦町大字田ノ口
中備織物同業組合	後月郡(西江原、木ノ子、在原村を除く)		後月郡高屋村
備中物産織物同業組合	小田郡大井村、大江村、稻倉村		同 郡西江原村
邑久上道織物同業組合	邑久、上道郡一圓		上道郡西大寺町

最近の産額は左の如し

品名	數量	價	額
廣巾白木綿	四七、八三三、八三三		一六、六二〇、五八八
白木綿	一七、二〇〇		二七五、三六六

品名	數量	價	額
雲子	一、四九七、六九九		二、五〇四、〇〇七
小倉洋服地	六、〇七五		一、五七五、七六七
二子綿木綿	一七九、三四四		四、九〇四、二九三
織色木綿	四、〇〇五、五九四		一、二四、四八九
袴地	三、一、一六六		九七七、九一四
帶地	五七、一九三		八七七、九四一
其他	八五、五六六		一、八四、〇〇〇
計	二七八、九三六		三、三八一、八五〇
絹織物	四、五五五		三、五五五、九三八
絹綿交織物	二、七〇六		一〇、七〇一
麻織物及毛織物	九七七		四三、七六一
織物雜類	三、七、一八三		三、七、一八三
合計	二九、八八九		四九、七七七
合計			三、四六七、三八四

足袋

岡山縣足袋同業組合は岡山市下田町に在り

本縣足袋は品質の堅牢なると價格の低廉なるとに依り江湖に歡迎せられ遠く三百年の昔より既に備前足袋の名聲を博せり而して岡山市及都窪、兒島、淺口の各郡より製出するものは総て東京型にして外觀優美にして都人の嗜好に適し美作津山方面に製産するものを津山足袋と稱し堅牢を旨とし實用向として賞用せらるる之が原料たる雲齋は總て縣内産のものを採用し金巾及白木綿は幾分他より供給を仰きつゝあり近時染色に對しては深甚の注意を拂ひ紺染は主として硫化染料を用ひ靛色脱色の虞なく晒は最新の技術に依りて漂白を行ひ地質の保健に努む岡山縣足袋同業組合は明治四十一年岡山、御津、邑久、上道、兒島、都窪、淺口、吉備の各郡を地區として岡山市下田町に設置し爾來品質の改良、販路の擴張に努め著しき發展を遂げたり種類は地下足袋、縹子足袋、紺目久、木綿足袋、晒真岡、ベツチン等とす最近の産額に左の如し

數量	價格	主産地	販路
----	----	-----	----

一四、九三、六三〇	五、六五、五二四	兒島、岡山、淺口、都窪、苦田、小田、御津、吉備、上道、邑久、赤磐、其他各郡	四國、九州、山陽、山陰、近畿、北陸、關東、其他滿鮮地方
-----------	----------	---------------------------------------	-----------------------------

和紙

美作紙同業組合は苦田郡津山町に在り

和紙の種類は半紙、美濃紙、書院紙、卷紙、塵紙、姫紙、幅體紙等其主なるものとす由來本縣は楮三種の生産に富む殊に藁半紙は其特産にして夙に名聲を博せしが近時機械製紙の壓倒を受け漸次不振の状態に在るも幸に副業生産なるを以て其打撃を蒙ること甚しからずと雖も之を放任するときは年と共に衰退すべきを以て明治三十三年以來縣費を以て技術者を置き指導啓發に努めしむると共に奨励金を交付し叩解機及乾燥器の設置を促し以て勞力の節減と製品の上を計り一面同業組合に補助金を與へて検査を勵行せしめ産業組合を奨励して販賣の方法を確立し生産費の減少を圖らしめつゝあれば面目を一新することを得へし最近の産額は左の如し

製産価格	主	産	地	販	路
一八六六、九二 ^四	苦田、勝田の二郡を主とし眞庭、英田、阿哲、和氣、久米の諸郡				縣内及近府縣

板紙

板紙は美作製紙岡山製紙、山陽板紙の三會社に依り生産せらる美作製紙創立の當時は全國の生産僅少なりしより相當の利益を収めたりしが明治三十一年頃に至り販賣競争激甚を加へ其弊に堪へずして三十二年遂に販賣の聯合を作り數年間平穩の経過を取りしが日露戰役後板紙の需要俄然増加し清國及印度方面の貿易も亦發展を爲したる爲め會社の新設少からず山陽岡山兩社の新設と共に全國幾多の工場は聯合以外に立ちて盛に市場に競争を試みたるより市價暴落し危地に陥るものあるに至り四十三年更に販賣聯合を協約し四十四年之を改めて板紙共同販賣所を設け生産を制限し價格を協定し一面海外輸出品に對して獎勵金を交付し外國品と海外市場に競争するに便せしめ以て生産の調節を保ちつゝあり偶歐洲戰亂は

數	量	價	額	販	路
	三三、九一八、四八七 ^{對度}		二、六四、九八五 ^四	内地は大阪を主とし東京、名古屋其他海外は印度、香港、上海等	

伊部燒

伊部燒は備前燒と稱し和氣郡伊部町に産し製品は古雅を以て世に知らる伊部は忌部又は齋部と稱へしが後世伊部と改めたり其濫觴は遠く神代に發せしものなりと云ふも記録の據るべきものなし之を朝廷に奉りしは延喜式、日本紀等に載せられたり後應永年間に至り大窯を築きて盛に製出し天文文祿の頃に至り名工輩出せり舊藩當時に在りては其保護を受け製造したるを以て優品自ら多く一個實に千金に値するもの少からずと雖も廢藩後は製品著しく

ウードハルブの輸入杜絶と曹達灰の暴騰に依り多大の影響を受けたるも本縣は幸に曹達灰代用品の利用に依り製産家は少なからざる便益を得大正五年度に於ては其生産増加の傾向を呈し益々販路を擴張し全國中第一位を占むるに至れり最近の産額は左の如し

低下し復舊時の雅趣を存せざるに至れり茲に於て有志胥謀り備前焼株式会社を組織して製品の改善販賣の統一を計り以て聲價の回復に努めし結果舊時の製品に及ばざるも優品を製出するに至る本品の特徴は使用するにつれ益々其眞價を顯すを以て賞せらる種類は茶器、置物、盃、湯呑等とす

虫明焼

虫明焼は邑久郡雲掛村に産し天保年間舊藩主池田家の國老伊水三徳齋の創始に係り茶器の如きは愛玩すべき逸品を製出せしが維新後は僅に其命脈を存續するに過ぎざるの狀態に在りて之が再興計畫中なり

酒津焼

酒津焼は都窪郡中洲村酒津に於て製出す明治九年の創業にして一名加貳登焼と稱し雅品を製す種類は花瓶、茶器、盃、湯呑、皿等なり

大原焼

大原焼は淺口郡里庄村に製産する土器にして煎茶釜、土鍋等を主とし燈籠、風呂釜等古雅なるものをも製出す

御庭焼

藩主池田繼政狩野派の畫を學び盛名あり後樂園橋畔に暫軒と云ふ亭榭の庭に窯を築き伊部の陶工を招きて自作の置物、器物等に或は色繪、藍染、白燒等を燒かしむ頗る優美のものたり後廢藩と共に廢絶に歸せしを明治四十四年頃世々陶業に従事せる田中巴石なるもの往昔の窯跡を再興し現に各種の器物を製す若し彩管の枝あるもの意に任せて生地に畫かんか公園一周の間に燒揚げ家苞となすを得べし

最近の産額は左の如し

家具及裝飾品

五萬七千參百圓

飲食器

壹萬四千四百五拾圓

玩 具
工 業 用 品
其 他

壹千四百圓
貳千貳百圓
五百圓

耐火煉瓦

本縣に於ける耐火煉瓦の製造は和氣郡三石町を主とし兒島郡宇野町、苦田郡津山町に株式組
織に係る會社數ヶ所あり何れも其質優良にして近時工業の進歩發達に従ひ頓に其需要を増
加し其産額も多額に上り全國中に於て第一位を占むるに至れり

普通煉瓦

普通煉瓦の製造は和氣赤磐郡を主とし岡山、兒島、苦田其他の各郡より産出し其産額少からず

土 管

土管は和氣郡伊部町伊部製陶株式會社、伊部土管株式會社の製産を主とし其他郡部數ヶ所よ

り製産し鉄道耕地整理用其他建築材料として賞用せらる
最近の産額は左の如し

種 名	數	量	價	額	販	路
耐 火 煉 瓦		二〇、八四四、九五四		一、五二、六八四		京阪地方約六割
張 付		一、九五四、五六四		二四一、四三三		
普 通 煉 瓦		二、三六、五〇〇		九、五二一		京阪地方約六割
土 管		一七四、四四三		一四、六一二		同
其 他		八六八、八四〇		四八、六九五		

清 酒

往時に於ける本縣の清酒は色澤濃厚香味劣悪のもの多かりしが嗜好の向上に伴ひ灘酒の移
入を増加し日清戦後に於て殊に其傾向甚しからんとするに至りたるを以て醸法改良の急を
認め縣内各地に於て毎年清酒品評會を開き酒造杜氏の淵藪地たる淺口郡に於て毎年一回杜

氏の爲めに講習會を開き學理を授け之を實地に應用して品質の改良に努力せしに其効果顯著にして明治四十年頃に至りては灘酒に比し敢て遜色なきのみならず一旦兵庫縣に移出せしもの灘酒として再び本縣に逆輸するの奇觀を呈するに至り全國各地の品評會に於ては常に優等賞を獲得す現今に至りては全國中に於て一二を争ふに至れり是釀酒改良の效果に依ると雖も抑亦釀酒原料米たる本縣産雄町種と稱する米の品質精良なると水質の純良なるとに素因するものと謂つべし最近の産額は左の如し

數量	價額	主産地	販路
三三、九六石	一九、〇四八、〇〇	淺口、岡山、兒島、赤磐、邑久、上道、吉備、都漣、御津	阪神、九州、香川、愛媛、廣島、東京、名古屋、鳥取、島根

醬油

同業組合は岡山市天瀬町に在り

由來本縣は麥大豆の生産豊富なるを以て醬油醸造業は夙に盛にして其質亦優良備前醬油の名の下に古來京阪地方に歡迎せられ販出額年々數万樽に上りしが近時販路の益々擴張する

に伴ひ品質に於ても亦大に改良の必要を認め大正元年九月同業組合を組織し又醸造試驗場を附設し一面種麹の頒布を行ひ技師を置きて實地指導の任に當らしむる等極力發達に努めつゝあり最近の産額は左の如し

數量	價額	主産地	販路
一〇七、五五石	八、七四、七八	兒島、淺口、後月、岡山市、邑久、上道、都漣の諸郡	東京、大阪、京都、兵庫、滋賀、廣島、山口、鳥取、香川、愛媛、高知、長崎

素麵及乾餛飩

中備素麵同業組合は淺口郡鴨方村に在り

素麵乾餛飩は縣内各地に於て産出す其最も製産額の多きものは素麵に在りては淺口郡にして之に亞くものを小田郡とす乾餛飩に在りては淺口、小田郡を最とし後月、吉備、勝田、久米郡等之に亞く其種類は器械製手延製の二種にして其産額は本邦に於ける大製産地たる播州素麵に譲らず備中方面に於ては明治三十二年備中國を地區とせる同業組合を設置し品質の改良販路の擴張に努め著しく進歩發展を遂げ需要も年次増加し生産力に於ても手延製なりしを

機械の發明に依り製造能力を倍獲し却て生産費を減するに至れり然れども優良品は使然手
延に依らざるべからざるが如し近時米食代用に供せられ頗る歡迎せらる最近の産額は左の
如し

種名	数量	價額	主産地	販路
素麵	一、八七、七〇〇 <small>圓</small>	一、五九、二三四 <small>圓</small>	淺口、小田、吉備、川上 後月、勝田、兒島、上房 邑久、御津	關西、九州、四國、山陰 北陸、鮮滿、米、布等
乾麵	九四、一七三	八五四、三〇七	淺口、小田、後月、吉備 川上、岡山、上房、勝田 久米	同前

肥料

戦近販賣肥料需用額は逐年増加したりしが歐洲戦亂中は硫酸安母尼亞、智利硝石等輸入殆ど
杜絶の状態に在り従て價額騰貴の爲め戦前に比し聊金肥需用額は減少せしものゝ如くなり

しに戦後財界の好況は延て農家經濟を潤澤ならしめ之と同時に食糧充實問題の高唱せらる
るに當り多産多收を期せんとし頗る金肥需用額を増加し大正九年中に於ては貳千萬參千八
百九拾七貫價額壹千貳百五萬九百九拾八圓に達したり是等肥料の製産地は大阪、兵庫、東京、廣
島、北海道等大部分を占め全國大會社の製品にして本縣に輸入せざるはなし而して本縣内の
製造肥料は兒島郡小串村在大日本人造肥料株式會社及小田郡神島外村在神島人造肥料株式
會社の二大會社に於ける過磷酸石灰及配合肥料を主とす同年中の製造額は左の如し

生産額

三、六、七、四、〇〇〇圓

價額

六、九、四、九、四、四圓

薄荷取卸油

備前薄荷同業組合
小田後月薄荷同業組合
中備薄荷同業組合
三備薄荷同業組合

邑久郡邑久村
小田郡小田村
都窪郡倉敷町
同郡同町

に在り

本縣に於ける薄荷栽培は文化十四年の頃備中國後月郡門田村秋山熊太郎なるもの江戸より僅少の種根を持歸り試植せしを濫觴とす爾來繁殖して取卸油を製し菓子商及賣藥店に賣けり而して其栽培及製油の方法は秘して他人に傳へず然るに明治十九年九月都窪郡の別府伊太郡外二人に若干の種苗を賣却せしを初とし同年初冬より翌二十年一月の頃迄に邑久上道郡地方へ賣却せしもの主として小田後月邑久郡地方へ栽培せらるゝに至り現今に於ては本縣主要産物に算せらるゝに至る之が同業組合三ヶ所及同業組合聯合會ありて製油の濃度を検査し容器の統一販路の擴張等に努め現今全國第一位を占むるに至れり最近の産額は左の如し

數量	價額	主産地	販路
三、二、六〇	三、三、六〇	小田、後月、淡口、都窪、吉備、兒島、赤松、和氣、邑久、上道の各郡	神戸、横濱、廣島の輸出商の手を経て、英、米、佛、濠洲、印度、香港に輸出す

蒟蒻粉

岡山縣蒟蒻粉同業組合は川上郡手莊村大字地頭に在り

蒟蒻の栽培は古來川上郡及後月郡の一部にて行はれ玉芋の儘にて移出せしものなるが明治十三年の頃水戸蒟蒻製粉の状況を視察し歸り同十六七年の頃精米水車を利用し製造に着手したるを濫觴とす爾來製粉に關し研究の上製粉工場を起すものありしも兎角意の如くならず幾多の星霜盛衰を経て明治三十四五年の頃に至り漸く新業發展の曙光を認むるを得大正二年同業組合を組織し製品の改善販路の擴張に努め今日の盛況を見全國中に於て其第一位を占むるに至る現今に於て川上後月両郡を通し四十餘ヶ所の製造所あり産額は年の豐凶に依り同じからず最近の産額は左の如し

數量	價額	販路
△二、九六	五、四、〇〇	縣内、大阪、九州、米國、南洋、支那

菓子

本縣に於ける菓子は吉備團子、初雪調布、朝日羊羹、養老柿餅、餅子等古來より人口に膾炙す米の

成木鶴の玉子煎餅、蒸菓子干菓子其他各種製品中優品も亦乏しからず就中吉備團子の滋味佳香貯藏久しきに耐ゆる初雪の甘味淡白にして上品なる何れも土産品として顧客多し雜菓子は製造者最も多數にして駄菓子と稱する下等品を主として縣外に多額の販出を爲す近時菓子同業者間に岡山菓友會なるものを組織し時代嗜好の變遷と衛生上等の關係を研究し滋味意匠等専ら製品の改良を圖り時代の要求に順應することに努めつゝあり最近の産額は左の如し

價 額 貳百參拾八萬四千四百五拾參圓

燐 寸 同業組合は岡山市内山下に在り

燐寸は明治十二年始めて岡山市片瀨町に有恒社なるもの起り製造を開始せしに技術の未熟なると當時一般燐石を以て用を辨したるに依り需要甚少く事業萎微として振はざりしが明治十四年政府より參萬貳千九百圓を借受け技術者を雇聘し盛に製造を爲すに至りしが時運の進歩は漸次其需要を増加し供給漸く不足を告ぐるに際し兵庫燐寸の輸入激増し其壓迫を

受け激甚なる競争を惹起し粗製濫造甚しく前途憂べき現象を呈したり茲に於て明治四十年同業組合を組織し燐弊に努め兵庫燐寸と市場に競争し一面販路を九州に開きて移出し漸く聲價を博するに至れり現今に於ては岡山市備前西大寺等に三ヶ所の工場あり最近の産額は左の如し

數	量	價	額	販	路
六、一七〇、一五〇	斤		三六、〇〇〇	圓	縣内、中國、山陰、九州、四國、印度、爪哇、孟買、カルカッタ方面

菓 製 品 岡山縣燐同業組合は岡山市七香町に在り

燐寸は農家に於て自家用又は販賣用として農閑期を利用し製造す之が原料たる菓は米作の副産物たるが故に牛馬の飼料及肥料に使用したる餘剰は全部燐寸の原料に充用し得らるゝを以て製造上至大の便利あり現今盛に製造せらる就中燐は農家婦女子の手に依り製造するもの多し最近の産額は左の如し

種 名	數 量	價 額	主 産 地	販 路
吹 繩	六、六〇〇 六、七〇〇	一、九〇〇 二、〇〇〇	御津、赤磐、和氣、邑久、上道、兒島の諸郡	阪神地方 岡山市及製糖地方

竹 製 品

本品の主なるものは籠及眷類にして縣下に於て之が製造を爲すもの多し就中吉備郡を以て最も盛なりとす同郡竹細工の起原は詳ならず其最も多く産出するは同郡福谷村眞星にして同部落は山嶺山麓に散在し耕地饒饒禾穀豐稔ならず豫て農家の副業を要望せるに偶矢竹の自生せるを知り藩主之を利用し竹細工を奨励せしに起因するものなりと傳ふ本業は一張一弛其價格も高低常ならざりしが維新后組合を組織し遂に今日の盛況を見るに至る而して近時荷車の使用盛なるに伴ひ漸次需用減退せりと雖も最近同村の製産は八千圓以上なりと云ふ縣下最近の産額は左の如し

品 名	價 格	主 産 地	販 路
竹 製 品	三、七〇〇	吉備、小田、川上、後月、淺口、眞庭、赤磐の諸郡	縣内一圓、香川、廣島兩縣

漆 器

郷原塗 郷原塗は眞庭郡郷原の製産にして古來より此名あり飲食器具を主とし家具裝飾品を出す其質極めて堅牢價格低廉なるを以て賞用せらる近時生産販賣組合を設置し販賣の便利を得漸く活況を呈せるも其産額多からず

岡山漆器 岡山漆器は元岡山市立工藝學校塗料教師中川長吉氏の創造とす大正元年市立岡山工藝學校の設立に際し氏は同校塗料教師として其招聘に應じ來る静岡縣人にして明治十四年漆器製造販賣を開始し横濱市に於て十二年間漆器貿易商を營み明治二十五年紙製漆器を創製し静岡市に工場を建設し爾來大正三年に至る二十三年間内外國向漆器卸商を營みたる閱歴を有し其岡山に來るや同校出身者の進路を開拓すると共に岡山市をして優秀なる漆

器製産地たらしめんことを期し公務の餘暇を以て刻苦研鑽の上漆器製造販賣を開始したるに品質本位の製品は忽にして世の好評を博し需要頓に増加し永く其職に居るを許さず辭して専ら其製造に従事し献身的努力を盡し今日の盛況を致せり

又岡山市立工藝學校も亦精巧の作品を盛に製出するに至り兩者の製品は何れも優美にして而も價格低廉なるを以て岡山漆器として世の歡迎せらるゝ所となり年と共に其製産を増加しつゝありて將來有望の製産品たり種類は會席膳、吸物椀、重箱、菓子器、硯箱、巻葉入、盆類、日用品、文具類等なり

最近の産額は左の如し

價 額 五六、二八九^円

販 路 縣内及近府縣

柳 織 靴

本品は苫田郡津山町日本柳織株式會社の發明特許製品にして原料は杞柳を用ひ製品堅牢体裁優美且携帯に便に價格も亦廉價なるを以て創業未だ日淺きに拘らず需要に應ずる能はざ

るの好況を呈せり而して其製品の多くは殆ど東京、京都、阪神地方へ移出す、年産額は左の如し
産 額 五 萬 圓
上記以外の産額左の如し(十萬圓以上)

品 名	數	量	價 額	主 要 産 地
染 料		九、三三〇、一〇三	八四、五〇〇 ^円	兒島
石 粉		一三、三〇二、二二三	三三、二九九	
工 業 用 藥 品		六、三三三	六七、三三三	
帽 子		六、三三三	三二、二七六	
木 製 品		一、九七六、七五三	七二、四四四	苫田、淺口、岡山、兒島
下 駄		三六六、七三六	六七、七九〇	都窪、後月、上房、苫田、岡山
燃 料		一、九七六、七五三	五、〇〇一、五	都窪
賣 船		五、〇〇一、五	三二、三〇三	
造 船		五、〇〇一、五	一一、〇七〇、八一	兒島
セメント		六、三三三	二、三三三、三〇三	

大正十一年三月十二日印刷
大正十一年三月十五日發行

編輯者兼

岡山縣商品陳列所

代表者 宮 脇 安 直

岡山縣岡山市船頭町三十七番地

印刷者 安 井 宇 吉

岡山縣岡山市西中山下百五十四番地

印刷所 山陽新報社印刷部

247470

1944
1945
1946
1947
1948
1949
1950
1951
1952
1953
1954
1955
1956
1957
1958
1959
1960

終